

ご存じですか？ 薩摩川内市の 国民健康保険 の状況

【問合せ先】本庁保険年金課国保グループ
☎(23)5111(内線2842)

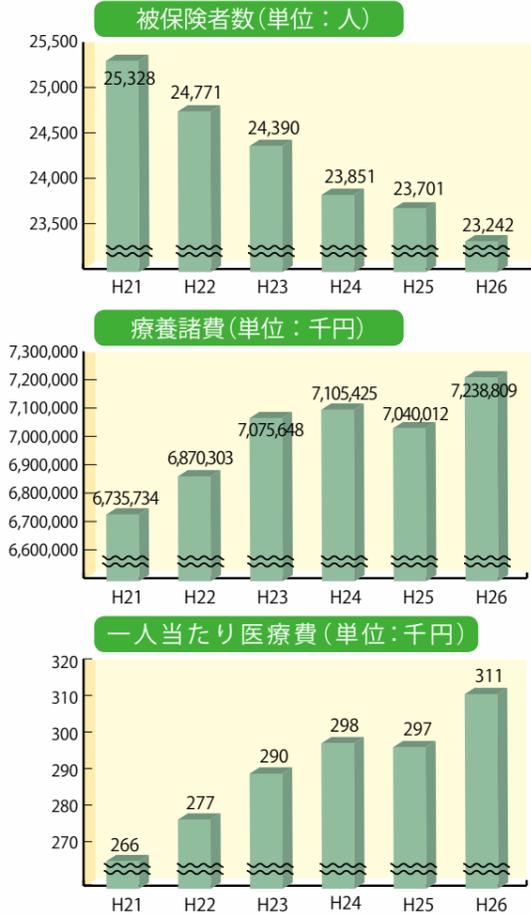
日本では、病気やけがをしたときに、安心して医療を受診できるように、「国民皆保険」が制度化され、何らかの公的保険への加入が義務付けられています。国民健康保険(以下、「国保」)はその中の一つで、市町村が運営している保険です。現在、本市全体の2割強の方が国保加入者(被保険者)です。

近年、高齢化や景気の低迷などにより、国保税は減収の傾向にあります。一方、医療費の伸びにより保険給付費は増加しており、大変厳しい財政運営を強いられています。

本来、国保にかかる経費は、国などからの補助金と加入者(被保険者)からの保険料によって賄われています。本市では、国保加入者の税の負担を少しでも軽減するため、一般会計から財政支援を行うなどの対策を行っています。

医療費(保険給付費)も、今後ますます増えることが予想されますので、医療機関を受診する際は、適正な受診に心掛けます。

③ 医療機関などの受診に関する年度別推移



左表を見ると、被保険者数が減少する一方で、平成26年の療養諸費、および一人当たり医療費は、前年と比較して急激に伸びています。この主な要因として、次のことが考えられます。

- ①平成26年に、診療報酬改定(消費税導入に伴うもの)があったこと
 - ②医療技術が高度化したこと
- また、鹿児島県の一人当たりの医療費は、依然として全国平均より高い水準となっています。
- 加入者一人ひとりの負担を減らすためにも、日頃の生活を見直し、医療費を有効に使いましょう。

医療費を有効に使うための7ポイント!

- ①同じ病気での重複受診はやめましょう。
- ②かかりつけ医、かかりつけ薬局を持ちましょう。
- ③お医者さんを信頼し、指示を守りましょう。
- ④薬を必要以上に欲しがるのはやめましょう。
- ⑤診療時間内の受診を心掛けましょう。
- ⑥年に1回は健康診断を受けましょう。
- ⑦ジェネリック医薬品を有効活用しましょう。



④ かかりつけ医・薬局を持ちましょう

●「かかりつけ医」はあなたの健康パートナーです。

日常的な診療を行ってくれる身近なお医者さんのことを「かかりつけ医」と呼んでいます。「かかりつけ医」は、あなたが何でも気軽に安心して相談できる力強い「健康パートナー」です。あなた自身と家族の健康のために、身近に「かかりつけ医」を持ちましょう。また、普段の健康管理や日常的な病気の治療の場合は、その「かかりつけ医」で受診しましょう。

●「かかりつけ薬局」を持って、薬をより安全で有効に!

患者は、どこの病院にかかっているか、処方せんがあれば薬局を自由に選ぶことができます。いつも利用する薬局、すなわち、「かかりつけ薬局」を持つことで、薬歴(薬の服用の記録)を総合的に管理できる利点があります。

これにより、薬の飲み合わせなどによる副作用を未然に防止できるほか、薬の飲み忘れや気掛かりなことなど、気軽にアドバイスや健康情報を受けることができます。

●特定健診・がん検診により、早期発見!早期治療!

生活習慣の改善や病気の早期発見・治療を行うことで、将来の金銭的な負担(治療費など)や身体的な負担(入院による生活習慣の変化、手術、リハビリなど)を軽減することができます。

特定健診やがん検診は定期的に受けましょう。

特定健診 早めに受診を!!

(国保加入の40歳~74歳の方へ)

4月~5月にかけて、国保に加入されている40歳から74歳までの方に、特定健康診査(以下、「特定健診」)の受診券を発行しています。

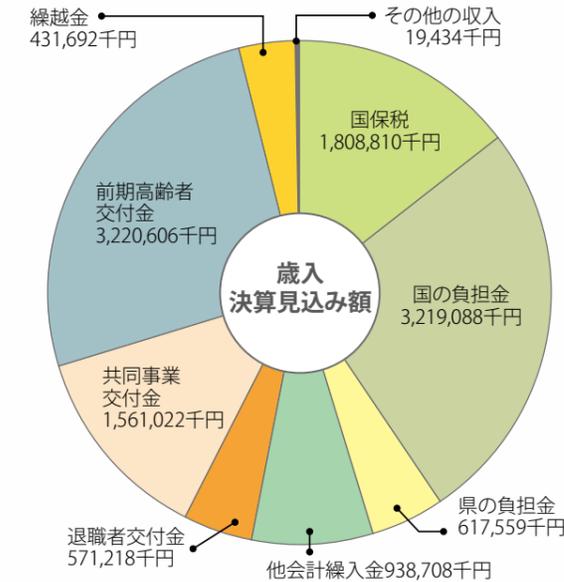
特定健診は、生活習慣病の原因であるメタボリックシンドロームに着目した健康診断です。要介護の原因となる心筋梗塞や脳梗塞、命に関わる深刻な病気を防ぎ、毎日を生き生きと過ごしましょう。

本年は、**11月30日(月)まで、指定の医療機関で受診することができます。**

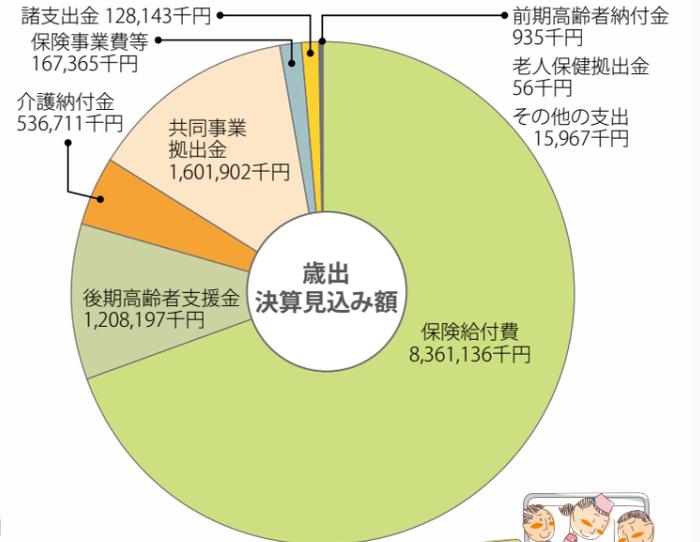
まだ受診していない方は、早めに受診しましょう!

① 国保事業特別会計<歳入・歳出>(平成26年度決算見込み額)

●歳入決算見込み(総額 12,388,137千円)



●歳出決算見込み(総額 12,020,412千円)



② 国保事業特別会計の推移<単年度収支の状況>

各年度決算推移額 *平成26年度は決算見込み額 (単位:千円)

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
歳入総額	11,384,208	11,961,641	12,296,902	12,328,301	12,285,093	12,388,137
歳出総額	11,028,674	11,380,180	11,984,201	11,937,210	11,853,401	12,020,412
収支差引(①-②)	355,534	581,461	312,701	391,091	431,692	367,725
基金繰入額	123,234	0	0	0	0	0
財政支援繰入額	230,000	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
前年度繰越金	264,724	355,534	581,461	312,701	391,091	431,692
基金積立金	208	0	200,000	44	160	158
公債費	13,704	13,704	13,704	0	0	0
単年度収支(③-(④+⑤+⑥)+⑦+⑧)	△248,512	△10,369	△305,056	△171,566	△209,239	△313,809
基金残高	0	0	200,000	200,044	200,204	200,362

*1「財政支援繰入額」とは、本市の一般会計(市の一般的な事業に係る会計)から国保事業特別会計へ財政支援を行った額です。

*2「単年度収支」とは、当該年度(単年度)の歳入から歳出を差し引いた額で、前年度繰越金や赤字補てんのための繰入金などを除いた額です。平成26年度見込み額は約3億1300万円の赤字となっており、前年度よりさらに悪化していることがわかります。